

令和3年度 研修員個人研究 研究要約

令和3年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究要約は以下のとおりです。

所属	氏 名	研究主題及び研究副主題	研究要約
情報化推進班	三浦 敦	「ICT活用指導力の向上を図るための1人1台端末等を用いた活用事例研究」 ～中学校における活用事例づくりと実践を通して～	中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会では、「ICTや情報・教育データの利活用」が教師に求められる資質能力の1つとして再整理された。しかし、文部科学省の「令和2年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査」によると、本県教員の約3割が授業等でICTを活用して指導する能力に課題を感じていることが分かった。このような実態から、本県教員のICT活用指導力の向上を図る必要があると考えた。 本研究ではまず、1人1台端末等の活用事例や操作方法を示した活用事例集を作成した。次に、検証協力校の教員に協力を得て、活用事例集を用いた実践がICT活用指導力の向上に有効であるかを検証した。実践後のアンケート結果等から、検証協力校の教員のICT活用指導力に向上が見られたことで、活用事例集を用いた実践は教員のICT活用指導力向上の一助となったと考える。
	篠原 慎一	「1人1台端末を活用する教員の不安等の軽減に関する研究」 ～実践協力校の実態に応じた機器等の活用実践への支援を通して～	文部科学省が令和元年12月に打ち出したGIGAスクール構想を受けて、全国の多くの自治体は令和3年末までに1人1台端末と高速通信ネットワーク等の整備を進めている。これらの活用不安等を抱える教員の授業実践の一助となるよう、昨年度の研究では「活用事例マニュアル」を作成した。 そこで今年度は、実践協力校である県内の小学校一校の協力を得て、「活用事例マニュアル」の有用性を検証するとともに、1人1台端末を活用する教員の不安等の軽減に関する研究を行った。 まず、1人1台端末を活用する実践協力校の教員の不安等の詳細を調査し、把握した。次に、不安等の軽減のための各種支援を行い、教員への継続的な支援と1人1台端末活用のキーパーソンであるICT支援員との関わり視点で考察した。 本研究の成果として、1人1台端末を活用する教員の在り方や、不安等の軽減のための組織作りについてまとめた。
	赤木 亮介	「1人1台端末等を活用した授業の促進を目指して」 ～対話的な学びに焦点を当てた中学校の学習場面の例示を通して～	本研究では、1人1台端末等を活用した授業の促進を目指して、対話的な学びとICTの活用を掛け合わせた活用例を作成した。 中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』（令和3年1月）では、「情報化が加速度的に進む Society5.0時代に向けて、情報活用能力など学習の基盤となる資質・能力を育む必要がある」と指摘されている。つまり、これからの社会を見据えると、授業で1人1台端末等を活用する等、日常的に情報技術を活用する場面を設定する必要がある。しかし、端末の導入から日が浅く、1人1台端末等を活用した授業づくりに不安を抱えている教員が多いことが考えられる。 そこで、教員が自身の校種・教科における授業での端末活用のイメージをもてるようにしたいと考え、授業の流れとともに、端末やクラウドサービス活用のメリットを活用例としてまとめた。

令和3年度 研修員個人研究 研究要約

令和3年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究要約は以下のとおりです。

所属	氏 名	研究主題及び研究副主題	研究要約
義務教育研修班	山崎 智美	「自分の考えや気持ちを伝える力の育成を目指す中学校外国語科の授業づくり」 ～「書くこと」の言語活動の充実を通して	中学校学習指導要領では 外国語科の目標において、「外国語による言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成」が重視されている。しかしながら、全国学力・学習状況調査における自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある文章を書く問題の正答率は低く、継続的な課題となっている。 本研究では、まとまりのある文章を書くための方策として昨年度作成した Writing Process モデルを活用し、スモールステップによる段階的な手立てが、考えや気持ちを整理して伝える力の向上に有効であるのかを検証した。また、単元のゴールと関連付けて継続的に行う帯活動が、目指す力の向上の一助となるのか、生徒の書くことにおける学びの姿を通して検証した。「書くこと」の言語活動の充実を目指し、授業改善の具体的な方策として提案する。
	北原知恵子	「考えを形成し深める力を育成する中学校国語科の授業づくり」 ～「考えの段階」を重視した単元構成を通して～	「読むこと」の考えの形成における課題解決のために、その過程で働く「考えを形成し深める力」の育成を目指し、研究を行った。各学習過程で働く資質・能力の育成を目指した学習活動を整理した上で、単元を通して生徒が考えを形成し深めることのできる「考えの段階」を重視した単元を構成した。それを基に、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するための学習指導案を作成して授業を行い、考えを形成し深める力の育成を図ることができたか検証した。
	長橋 智子	「中学校美術科における生徒の見方や感じ方を深める鑑賞の授業づくり」 ～鑑賞活動の学びを深める学習プロセスを通して～	学習指導要領において、目指す資質・能力の育成に向けて鑑賞の充実が求められているが、県内の現状としては全国的な傾向と同様、鑑賞の授業構想に対する教師の苦手意識もあり、十分な取組には至っていない。そこで、昨年度の研究において、生徒が見方や感じ方を深める学びの過程を『鑑賞学習の学びを深める学習プロセス』として構造化し、教師の働き掛けを整理した。 本研究では、同プロセスに基づいた検証授業による生徒の造形的な視点の広がりや学びの深まり及び同プロセスの活用による教師の授業構想への意識改善について検証した。その結果、双方における有効性・有用性が示された。
	小嶺 裕明	「『生きて働く知識』を育む中学校社会科の授業づくり」 ～知識の構造化を単元構想の基軸とした実践の省察を通して～	本研究は、知識の構造化に基づき単元を構想し、その実践と検証を通して、概念の形成を主眼とした中学校社会科の授業づくりを提案するものである。 研究に当たっては、昨年度に作成した「知識の構造図」の様式を改め、構造化の視点について整理した。その上で、公民的分野「基本的人権の尊重」における構造図を作成し、「指導と評価の計画」として学習過程を具体化した。検証においては、子供が単元を通して形成した概念の構造を分析し、「知識の構造図」との関連について考察した。
	草野奈津美	「『数学的な見方・考え方』を働かせ、資質・能力を育成する小学校算数科の授業づくり」 ～「論理的な思考力」を軸とした数学的活動の充実を通して～	本県においては、全国学力・学習状況調査から、既習事項を関連付け、筋道を立てて考える「論理的な思考力」が十分に身に付いていないことが分かった。よって、児童が日常の課題や算数の問題に対して、「数学的な見方・考え方」を働かせ、筋道を立てて解決する「数学的に考える資質・能力」の育成を目指すべく、授業改善を図ることが求められている。 そこで、本研究においては、「論理的な思考力」の具体や、「思考力・判断力・表現力」と「数学的な見方・考え方」との関連について、学習指導要領に記された事例をもとに整理し、その上で、一単位時間の思考過程を明らかにしたモデルと、それを軸とした単元構想シートと授業構想シートを作成した。
	横山ルミ子	「主体的に学び、『わかる楽しさ』を味わう児童を育成する国語科指導」 ～言葉による見方・考え方を働かせ、学びの自覚につながる学習過程の明確化によって～	目的に応じた読書、自分の考えの明確化等、小学校国語科における学力の継続した課題は、意欲との関連があることが考えられる。そこで、本研究では、深い学びによって児童に「わかる楽しさ」を味わわせるため、「言葉による見方・考え方」を核とした授業構想を行い、一単位時間の学習過程を明確にした。 具体として、研究の視点を取り入れた物語教材における指導案を作成し、班内模擬授業によって有効性の検証を行った。指導をする上で必要となる学習用語及び指導事項等をまとめた系統表を合わせて作成した。

令和3年度 研修員個人研究 研究要約

令和3年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究要約は以下のとおりです。

所属	氏 名	研究主題及び研究副主題	研究要約
義務 教育 研修 班	脇浜 貴広	「深い学びを実現し数学的な資質・能力を育成する中学校数学科の授業づくり」 ～関数領域における概念的理解を促し、日常と数学を往還する活動を重視した単元構想を通して～	過去4年間の全国・学力学習状況調査の結果から、長崎県は関数領域に課題があることが分かった。また、学習指導要領では、「概念を形成すること、日常と数学の往還を行うこと」について、授業改善の必要性が示されている。 そこで、本研究では、「一次関数」の単元において、概念形成を促し、日常と数学を往還する活動を重視した単元を構想する。さらに、単元を通して繰り返し行う発問を設定し、概念形成に向けてどのように働き掛ければよいか、学習活動と合わせて単元を整理する。また、生徒が課題を自分事として捉え、形成した概念を活用できるよう工夫した学習指導案を作成した。本県の教師が、授業改善を図るための一つの参考とするべく、作成する過程や成果物を一つの事例として提供する。
	富村 崇広	「資質・能力の育成につながる中学校理科の授業づくり」 ～「探究の過程」の導入段階における「子供の姿」に着目して～	平成30年度全国学力・学習状況調査中学校理科の結果から、本県では、科学的に探究する学習活動において、「自然事象に対する気付き」「課題の設定」「仮説の設定」「検証計画の立案」といった「探究の過程」の導入段階における指導に課題があることが明らかとなった。 本研究では、主に長崎県教育センターが作成したリーフレットを基に、「探究の過程」の導入段階における生徒の発言や記述といった「子供の姿」を想定し、それを引き出す「教師の働き掛け」を位置付けた授業づくりについて提案する。 本授業づくりをもって、「探究の過程」全体を生徒の学びとし、資質・能力の育成に資することを目的とする。
	本多 直純	「『自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動の育成』を目指す学習プログラムの提案」 ～就職差別撤廃を目指した教材「本当の私を見て」の学習効果を得るために必要なプログラムの作成を通して～	本県はこれまで不適正採用選考根絶に向けて取り組んできたが、未だ解消に至っていない。この状況の中、学校は全ての子供に「差別に気付き、許さず、無くそうと行動する力」を育み、人権尊重社会の創り手としての資質・能力の獲得を保障しなければならない。そのための教材に「本当の私を見て」があるが、十分な学習効果を得るには人権・部落問題学習の積み重ねが必要と考える。 そこで、本研究では不適正採用選考等の現状や課題の分析、人権・部落問題学習を更に行う必要性・意義等を整理し、講義・学習プログラム等を作成することで、参加者の人権に関する知的理解と人権感覚が向上し実践行動が促進されることをねらった研究を行った。更に、作成する研修プログラムを研修会等において実施し、参加者の振り返りから、研修内容として効果的であったかを検証した。
	吉野 美穂	「教師の人権感覚を高め、子供一人ひとりを大切にする教育活動の推進のために」 ～体験的参加型学習を活用した研修プログラムを通して～	「人権教育の指導方法等の在り方について」[第三次とりまとめ]には、「教職員の人権尊重の態度によって、児童生徒に安心感や自信を生むことにもなる」とあり、学校教育において子供一人ひとりを大切にし、自尊感情を育てていくためには、大きな環境でもある教師自身の人権感覚を高めることが重要となる。 そこで、本研究においては、教師の人権感覚を高めることを視点とし、体験的参加型学習をどのように実施すれば効果が高まるかについて考え、研修プログラムを作成する。 作成した研修プログラムは、県教育委員会主催の地区別人権教育研修会において実施し、参加者の振り返りから、教師の人権感覚を高めるための実施計画として効果的であったかについて検証していく。

令和3年度 研修員個人研究 研究要約

令和3年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究要約は以下のとおりです。

所属	氏名	研究主題及び研究副主題	研究要約
高校教育研修班	麻生 大輔	「歴史的な見方・考え方を働かせる 地理歴史科の授業づくり」 ～新教育課程科目「歴史総合」の視点で様々な対話を通して～	令和4年度から実施される新教育課程科目「歴史総合」は、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることを前提として学ぶ歴史学習の基礎科目として位置づけられた。膨大な知識の習得のみに終わるのではなく、類似や差異、因果関係などに着目する歴史的な見方・考え方を働かせながら歴史を学ぶことが、今後の高校歴史教育の重要な課題と考えたため、この主題を設定した。 「歴史総合」の特徴を踏まえた上で、個人学習で「資料との対話」、協働学習で「生徒同士の対話」、それぞれの学習を支援する形で「生徒と教師との対話」の3つ対話活動を行う授業を計画した。この授業により、歴史的な見方・考え方を働かせることができたかを検証した。 検証結果から、歴史的な見方・考え方を働かせることは、生徒の思考を促し、歴史学習への意欲の喚起につながるということが分かった。 研究の成果物として、授業で働かせる歴史的な見方・考え方の具体例と資料活用時の留意点を示した年間指導計画を作成した。
	朝野 美夏	「『思考力、判断力、表現力等』の育成を目指した学習評価の在り方について」 ～指導と評価の計画に基づいた高等学校数学科の授業づくりを通して～	平成30年の学習指導要領改訂を受けて、各教科における観点別学習状況の評価の観点3観点到整理された。これにより、教師が「子供たちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る、いわゆる「指導と評価の一体化」が実現されやすくなることが期待されている。また、学習評価の充実と質を高める観点から、令和4年度より指導要録へ観点別学習状況を記載することとされた一方で、高等学校教員の多くが観点別学習状況の評価に十分取り組めていない状況にある。 本研究では、新学習指導要領において育成を目指す資質・能力の三つの柱のうち、「思考力、判断力、表現力等」について焦点をあて、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した指導と評価の計画及び評価問題を作成し、その計画に基づいた授業を考案し、検証授業を行った。その結果、観点別学習状況の評価の一助となり得ることや、生徒の学習改善及び教師の指導改善に対する有効性を確認することができた。
	中村 美加	「『学びに向かう力』の育成を目指した化学基礎の授業づくり」 ～日常生活で発生する事故を題材とした学習指導案の作成を通して	国立教育政策研究所教育課程研究センターが実施した平成27年度学習指導要領実施調査（生徒質問紙調査）において、「化学の勉強をすれば、私の普段の生活や社会生活の中で役立つ」という問いに、否定的な回答の割合が肯定的な回答の割合を10%程度上回る結果となった。このことから生徒は、化学と日常生活や社会との密接な関わりを実感できていないと考えられる。 本研究では、化学と日常生活との関連性や化学を学ぶ有用性を実感できる授業づくりを目指して、日常生活で起こりうる事故事例を題材とした学習指導案（単元計画）を作成し、長崎県公立高等学校理科教諭に単元計画の有効性についてアンケートを実施した。 その結果、事故事例を「単に紹介するだけ」にせず探究的な取り組みなどの学習活動で扱ったり、生徒にとって身近な生活環境である家庭で起こりうる事故事例を題材としたりする単元計画が有効であることを確認できた。
	辻 綾子	「『伝え合う力』を育成する国語科の授業づくり」 ～「話すこと・聞くこと」の学習活動における指導と評価の一体化を通して	平成28年12月の中央教育審議会答申において、高等学校の国語教育における課題として「教材の読み取りが指導の中心になることが多く、国語による主体的な表現等が重視された授業が十分行われていないこと、話し合いや論述などの『話すこと・聞くこと』『書くこと』の領域の学習が十分に行われていないこと」が指摘された。また、高校国語科の教員に実施したアンケートでも、「話すこと・聞くこと」の指導を行う必要があると認識はしているが、実際はあまり実施していない実態が浮き彫りになった。言葉によるコミュニケーションは、人間関係を円滑にするために必要不可欠である。社会に出る前に学校教育の中で「話すこと・聞くこと」の指導を行わなければならない。そこで今回、現状の課題を踏まえ、新科目「現代の国語」の中の「話すこと・聞くこと」の領域における年間指導・評価計画、単元計画を作成した。学習指導要領の「話すこと・聞くこと」の指導事項を網羅する形で、また、それぞれの評価規準も示すことで指導と評価の一体化を図り、生徒の「伝え合う力」の向上の一助となることを目指した。

令和3年度 研修員個人研究 研究要約

令和3年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究要約は以下のとおりです。

所属	氏名	研究主題及び研究副主題	研究要約
特別支援教育研修班	田迫 照康	「発達障害のある生徒が効果的に自己評価を行い、積み重ねるキャリア教育の充実を目指して」 ～中学校におけるキャリア・パスポートに蓄積するワークシートの活用を通して～	以前、担任をしていた発達障害のある生徒の自己評価の低さの改善を模索している中、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行い、自己実現につないでいくキャリア・パスポートに適切な自己評価を促す可能性を感じた。 そこで、昨年度作成した キャリア・パスポートに蓄積する職場体験学習ワークシートが、発達障害のある生徒の 学びや思いをまとめやすいものであるかについて、前籍校の教師との協議とアンケート結果、検証授業後の生徒のアンケート結果から検証を行った。 協議とアンケートの結果から課題点を踏まえた職場体験学習ワークシートの改訂を行い、検証授業で活用した。検証授業後の生徒のアンケートから改訂した職場体験学習ワークシートが 学びや思いをまとめやすく、自己評価を促すことに有効であることがわかった。さらに検証結果から生徒の特性に応じた対話的な関わりが生徒の適切な自己評価を促すために有効であることが明らかになった。
	藤田 夏紀	「高等学校における気になる生徒の理解と適切な指導・支援を目指して」 ～チェックシートに対応した支援ハンドブックの活用を通して～	特別な支援が必要ではないかと考えられる生徒の中には、高等学校入学時の情報が十分でない生徒や入学後に学習上または生活上の困難さが表出した生徒などがある。このような生徒を早期に発見し、適切な指導・支援につなげるためのツールとして、昨年度「実態把握チェックシート」を作成した。しかし、チェックシートだけでは適切な指導・支援へつなげることが難しいなどという課題が明らかとなり、この課題を解決する糸口として、チェックシートの項目に対応した支援例等を記載した「高等学校における気になる生徒のための支援ハンドブック」を作成した。 今年度は、チェックシートと支援ハンドブックを活用することが、特別な支援を必要としている生徒の指導・支援の一助として有効か、また、教員への特別支援教育に対する理解啓発ならびに校内支援体制充実の一助として有効かについて実践検証し、有効であるという結果が得られた。
	向井 裕加	「聴覚障害のある児童生徒が他者と共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育む指導の充実を目指して」 ～居住地校交流リーフレットの活用を通して～	ろう学校の児童生徒は卒業後、障害のない人と共に働き、生活する機会が多いが、コミュニケーション手段の違いなどを理由に障害のない人との関わりに消極的な姿が見られる。 在学中に障害のない同世代と関わる学習の一つに居住地校交流がある。居住地校交流は、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が互いを正しく理解し合う良い機会ではあるが、そのためにはねらいを共有することや計画的・組織的に取り組むことが大切である。そこで、このような居住地校交流を推進するための「居住地校交流リーフレット」を作成することとした。これを活用することで、ろう学校の児童生徒と小学校・中学校の児童生徒が共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育む指導につなげることができると考える。

令和3年度 研修員個人研究 研究要約

令和3年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究要約は以下のとおりです。

所属	氏 名	研究主題及び研究副主題	研究要約
教育 相談 班	江頭 智史	「生徒が心を開く教育相談を目指して」 ～教育相談を行う教師のためのセルフチェックシート等の活用を通して～	昨年度（令和2年度）は、PDCAサイクルを取り入れた「教育相談年間計画」及び実施した教育相談を自己評価するための「セルフチェックシート（教師用）」、これを補足する「教育相談事後アンケート（生徒用）」を作成した。今年度（令和3年度）の実践検証では、研究協力校の教師が「セルフチェックシート（教師用）」と「教育相談事後アンケート（生徒用）」を活用することを通して、その有効性を検証した。さらに、研究協力校での実践検証を通して得られた結果をもとに、「実践検証後に改訂した『課題や悩み等を引き出すためのセルフチェックシート（教師用）』」、「教育相談のためのレーダーチャート」、「教育相談のためのサポートガイド」を作成した。これらを活用することにより、学校現場において教師が充実した教育相談のためのコミュニケーションスキルについて意識を高めるだけでなく、実践にもつなげやすくすることで充実した教育相談の実現に近づくことを期待する。
	今村 慶子	「高等学校における社会的自立に課題を抱える生徒の支援の充実を目指して」 ～「スクリーニングシート」と「サポートガイド」の活用を通して～	現在、通信制高等学校では単位修得が進まない生徒が一定数存在し、卒業時3割は進路未決定という状況である。（文部科学省令和2年度学校基本調査）この問題を解決するには、生徒の抱える課題を早期に発見し、解決法を見出す必要がある。 そこで、「スクリーニングシート」を作成し、活用することで生徒の課題を把握し、「サポートガイド」を用いて、適切に社会資源につなぐことで生徒がより安定した学校生活を送ることができると考えた。また、そのことが生徒の進学率や就職率向上にも寄与すると捉えた。 実践検証協力校において、「スクリーニングシート」と「サポートガイド」活用を通して、社会的自立に課題を抱える生徒の支援の充実について検証し、その有用性が確認できた。
	田中 淑香	「児童が考え、議論する小学校道徳科の授業づくり」 ～「道徳科授業づくりシート」の提案と活用を通して～	学習指導要領改訂に伴い、道徳の時間は「特別の教科 道徳」（以下道徳科）へと教科化された。教材の登場人物の心情理解にのみ終始する道徳授業や、本時で大切にすべき道徳的価値について児童に一方的に押し付ける道徳授業から、児童一人一人が考え議論する道徳科の授業へと質的転換を図ることが求められている。 そこで本研究では、考え、議論する道徳科の授業を支える要素を整理した。また、整理した要素と、小学校教員の道徳科に対する意識調査の結果をもとに、毎時間の道徳科の授業づくりの一助となるであろう「道徳科授業づくりシート」（A3・1枚）を作成した。県内の小学校教員が本シートを活用することで、道徳科の授業づくりにおける、授業構想力の向上につながるのではないかと考える。

詳しい内容をお知りになりたい方は、研修員個人研究報告書が玖島の杜図書館資料室（本館3階）にありますので、是非御覧ください。